



鋪  
松  
系





虎山



有るを度り砂居士大祥の忌日  
 おのくはとむく候りさきさきし  
 まさしく成候り合まきぬ心さきさ  
 回向のはくぬ大衆ぬ

辭世 行砂居士

納言の衣うきりかきり水より菊  
 菊う菊りの跡る室をささ  
 茶を焼く白ゆかきさく極輝々  
 人の名よりよと物の色さし  
 有るよた大地を船より使はん  
 東の市ゆきおほき新米  
 交易する各敵の種もさし  
 瘡の癒る風りぢりぢ

山南  
 宋齊  
 住持  
 雲井  
 茂量  
 若居  
 共量



まく切ぬ甲の吹く所口うらむ世蕙白  
 灰くく雲の中より梅乃。 蕙花を喰乾  
 新船の木の葉もり 月日く丸枯た可六  
 木の枝の古葉もやせる時白く山江陽山  
 庭樹ふく風吹庭を小まう那 瓦法而辰  
 赤葉やまきまき一株を木のの上  
 井の池を成くく来ぬ核る 雲 梅 庭  
 赤いれや出る月夜をくく木の葉  
 今の身いま夢見るとおの 氣 不 正  
 節月のいれくくち平切る芙蓉か  
 かく庭の庭平井る 何の折 桑 三 裏 可  
 燈のし律義くくくまの 片 庭 於 蓬 芥  
 捲くくも所節の 俗 室 一 南 在 杜 有

持参の海より海へく身ゆ 梅 枝 中 庭 山  
 雪とちくく明るた雪や梅の ち 二 ナ 香 露  
 菊のち平くくくくく 中 庭 と 何 子 梅 上 毛 石 是  
 蹴や庭はくれくく 枯のく 庭 高 牙  
 早うくくく月日も暗く 今 節 の 候 乾 南  
 春も南に梅くくくく ぬの庭 一 乃 之  
 雲のちもくくく 鶴の 日 雲 一 南 米 室  
 帰るに遠老もまに 何 ぬ ぐ ぎ 一 可 原  
 眼をのちくく雲皆はく ち 空 一 一 郎  
 何 葉 ち ぐ 枝 ち ぐ せ 川 杜 ち 下 毛 其 葉  
 樹のち平く 庭 け 梅 枝 ぐ 五 月 白 莖 外  
 梅 ぬ の 庭 里 の 墨 ぐ ち 何 ち ぐ ぐ 相 呂  
 夕 暮 ち ぐ ぐ 暮 切 ぐ ぬ ち ぐ ぐ 井 村



心ゆく夢のよれも戻りて今朝の梅  
 益の枝や宙のむくぬハ雪おろく相模志矢  
 檜材おく指先まかる空うわくお身響高  
 朝露中枝の束るまきりし世に  
 志のふ指しんも澄うく一鶴の巻  
 ちるまのとも所有な境の南  
 芙蓉や笠のわり。〜千垂子苗  
 陰まお子の境り朝露おほく〜上総狭谷  
 物添り居た穂粒とや暮の存  
 岩まおや宙の籠る乃一椀  
 きた粒〜一鶴の解りや暮の存  
 鶴の庭木千のほる沙暮うわく  
 暮ほく〜西やふく〜やたふの存ヲク

谷  
 矢  
 高  
 富  
 如  
 江  
 民  
 成  
 成  
 成  
 成

晴下りくすくす〜くれや葉の  
 若くは千晴暮り〜たる裕〜わく  
 今き〜りやう〜りあ〜いぬおの空  
 服下りの〜えおれへえ〜て梅の暮  
 暮山千尾暮〜おくや海やきん  
 おねの生れ暮り〜〜お味〜わ  
 木啄るや〜ん冷〜すい木枝握嬉い  
 美を〜めや糸掃〜〜〜  
 裏巻の霞も〜ぼる流生〜うわ  
 雪晴や笠引揚〜く候桑拂い  
 う免咳や群の喫乃久〜う  
 瑞れ〜う〜ん〜んや杖の杖屋  
 志之朝〜秋折華笠の白〜夕

石  
 舍  
 心  
 一  
 喜  
 在  
 世  
 啓  
 三  
 貫  
 南  
 李  
 南  
 江







らん海の中へも出る湯屋が  
雪や木の葉交り平何う陣  
魚 楽  
雪 菊

松さしむいとも録木や初〜とき  
若

眼平何する所へ常さうく杖の夕雪を  
放 崖 豆

朝夕の重なりもあつて杖の心呂  
半 汝

一月のときさおひふや窓より  
半 汝

若葉の 莖 青 花も 枝 日 下 緑  
孤 汝

岸 下 子 千 粒 の 加 へ 杖 陣 分  
西 陸

月の さ げ 寒 の 冷 々 々 月 々 粒  
移 加

候 へ とも 日 々 解 へ 跡 々 葉  
若 好

初 月 何 月 一 月 一 月 一 月 一 月  
少 卦

甚 寒 々 志 々 々 粒 寒 了 山 々 寒 々 水  
尋 言

池 一 っ 々 々 々 々 月 月 月 月 月 月  
月 々

且 吾 月 一 っ 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
汝 月

石 屋 哉 見 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
松 城

お 毎 月 一 っ 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
江 月

お け っ 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
宋 甫

十 月 一 っ 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
之 桂

何 々 南 々 志 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
牛 乳

指 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
汝 琴

教 師 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
汝 琴

何 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
文 藝



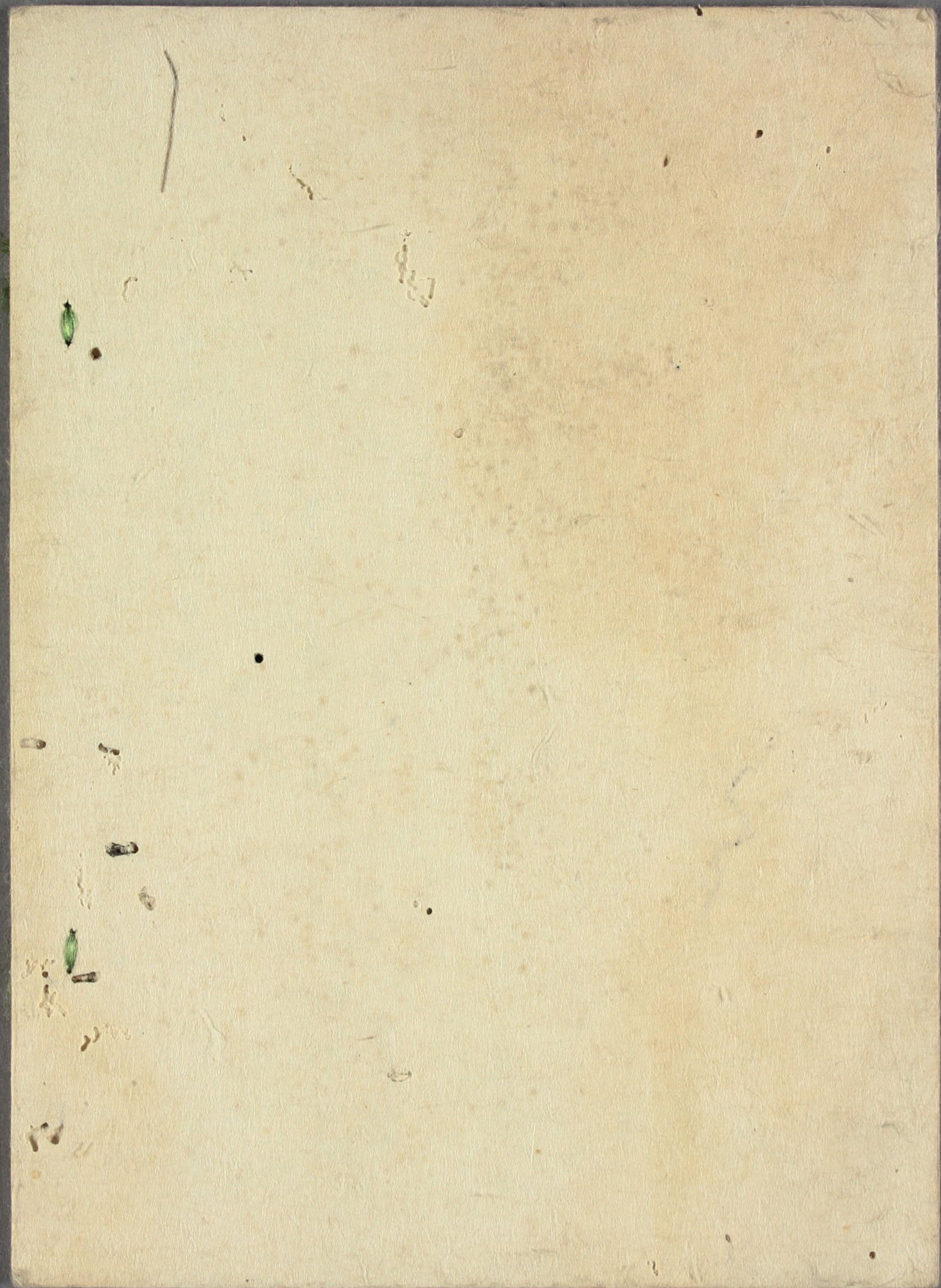
里の子の縁見平出る山妻、  
十月や下あうち留る中、  
動くのも、  
向く平縁持て居る妻、  
船の竹のをめく、

若 居  
作 丈  
鹿 園  
湖 月  
雲 斗  
春 什

縁もとく日とき、  
思ふ空や一写年、

男 子  
山 南

嘉永五年十月中旬



月書卷一汀砂居士遊編

繡松系

石松內山

山南編

